



区議会第2回定例会 区民が主人公のまちづくりを

神南小の容積率移転や区道の廃止・提供やめよ

政府と財界による新自由主義経済政策によって、格差と貧困が拡大し、日本は経済成長できない国になっていきます。渋谷区は、一貫してその旗振り役を果たしていませんが、長谷部区長は、区民の税金や財産を、営利企業のために差し出し、区民の無視で事業を進めています。

第2回定例会の代表質問で私は、区役所の隣で、神南小学校と隣接する渋谷ホームズが中心の再開発事業について、区長の姿勢を質しました。以下、質問と区長答弁の要旨です。

今年度の渋谷区の予算では、渋谷駅周辺の再開発事業に50億円、区内中小業者支援とは無縁のグローバル拠点都市推進に3億円、ファームなどを整備するためのササハタハツには11億円もの税金を投入しようとしています。困っている区民に届く独自の支援はありません。区民からは、税金の使い方が逆立ちしている、困っている区民に寄り添う気持ちはないのか、と怒りの声が上がっています。税金の使い方は、大企業奉仕、区長のための事業優先から、困っている区民、中小業者支援、教育の充実最

優先に改めるべきです。

●公園通り西地区再開発事業について

「(仮称)公園通り西地区市街地再開発事業」では、現在14階・延床面積2万949㎡の渋谷ホームズは、地上34階、高さ約150m、延床面積約7万3900㎡となります。事業協力は東急不動産と清水建設です。

これだけの高層マンションの建設が可能なのは、区が

再開発事業で、渋谷ホームズは…

	現在	計画案	比較
階高	14階	34階150m	2.4倍
延床面積	2万949㎡	7万3900㎡	3.5倍

610㎡の区道を廃止して敷地に加え、神南小学校の容積率を移転するためです。再開発事業者は、その見返りに神南小学校を建設しますが、渋谷ホームズの延床面積は3.5倍以上に増えます。

区道の廃止と神南小学校の容積率の移転は、開発業者への便宜供与と考えますが、区長の所見を伺います。

神南小学校の建替えについては現在、学校建替え準備委員会が開かれています。費用については触れられていません。神南小学校の建設費用はいくらですか。すでに事業者の都合で事業開始が1年遅れています。事業者の都合で建設費用が左右されたり、計画が破綻する可能性もあります。その際の対応はどうするのですか。

5月18日に行われた「神南二丁目・宇田川町地区都市計画素案意見交換会」には、25人以上の住民が参加、ほとんどが反対意見であり、再度の説明会開催を求めましたが、区は拒否したとのこと。なぜ、説明会の開催を拒否したのですか。継続して説明会を開くべきです。学校は、教育の拠点であるとともに、地域のコミュニティと防災の拠点です。子どもや学校関係者や地域住民も参加できる学校づくりのための説明会を開くべきです。

そもそも、学校関係者と住民が一緒に参加する説明会が開かれないのは、開発事業と一体に神南小学校を建て替える計画だからです。子どもの利益や教育、地域の環境より事業者の利益が優先されるPPP/PFIは、学校施設整備の手法としては相応しくありません。神南小学校の建て替えは、区が単独で実施すべきです。

区長答弁 この再開発事業は、渋谷ホームズの区分所有者が老朽化したマンションの共同建替えをしようとするもので、住民等の合意に基づく事業です。

本計画では公共広場の整備、低高差解消となる学校を建て替えて地域防災力の総合的強化を図るなど、区役所周辺の区域が一体となったまちづくりを実現するもので、便宜供与ではありません。

なお、事業者の都合を心配されていますが、責任を持って事業を推進する旨、再開発組合から確約を受けて進めています。説明会を拒否したことはありません。

「意見交換会」では、会場のほか区ホームページで説明映像を配信し、郵送等で意見を受け付ける形式で実施しました。今後の原案も、同様に、区ホームページでの配信と会場での意見交換会を開催します。

神南小学校の建替えについては、建替え準備委員会において、学校や地域の関係者による協議や保護者への説明会を経て基本計画を作成しました。建築費用については、今後の設計段階で検討を行います。

学校施設の整備を着実に打進めるためには、効率的、効果的に事業を進めていくことや、区民負担の軽減が求められます。そのために民間事業者の能力、ノウハウや資金を活用するあらゆる事業手法を検討していきます。

樹木伐採はやめて！多数の声 玉川上水旧水路緑道の都市計画の変更(原案)意見交換会で

玉川上水旧水路緑道の都市計画の変更(素案)についての渋谷区の説明会が、7月21日地域交流センター西原で開催されました。

今回の都市計画の変更は、代々木3丁目～大山の区間の緑道について、「都市計画道路」を「都市計画公園」に変更しようとするものです。変更の目的は、ササハタハツの一環として、緑道を農園などに再整備するためです。この変更によって宮下公園や北谷公園のように、緑道を民間業者に管理させ、その一部をカフェなど営利目的に使うこと(公園PFI)も可能となります。なお、ササハタハツには、京王電鉄や東急不動産が参加しています。

説明会には、約50人の住民が参加、「189本の樹木の伐採はやめて欲しい」、「緑道の1235本の樹木を、1人の樹木医が4日間で鑑定したと聞いたが、無理ではないか」など樹木伐採に反対の声が多数出されたのに対して、区は「樹木医に再度鑑定してもらおう」と回答。住民からは、区の樹木医でなく、住民が求める樹木医による鑑定を求める声も出されました。